

第1回横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会 議事録

日 時：平成28年5月17日（火）午後1時30分

場 所：横芝光町役場 第3会議室

事務局：産業振興課

コンサルタント会社：㈱オオバ

外部アドバイザー：㈱ちばぎん総合研究所

1. 開会

代理出席（堀越健一委員代理：横芝光町都市建設課北田副課長）報告

欠 席（森川忠委員）報告

2. 委嘱状交付

代表者1名「京葉銀行横芝支店 高山裕紹委員」へ佐藤町長から委嘱状の交付

3. 町長あいさつ

町長：

みなさんこんにちは。大変お忙しい中にもかかわらず、ご参集いただきましたこと誠にありがとうございます。また、日ごろより、町行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、本日、第1回横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会を開催させていただき、先ほど、委嘱状を交付させていただきましたが、委員としてご快諾いただきましたことをあらためて感謝申し上げます。町の産直交流施設の経緯、今後の方針については、この後、事務局よりお示しさせていただきますけれども、近隣市町や全国を見ましても産直交流施設を持たない自治体も少なくなってきました。当町は合併して10年を迎えますが、未だに旧町時代のふたつの農協関係を含め色々な課題がある中で、一体感を深める手段として産直交流施設が必要不可欠なものとなっております。前回の基本構想の中で坂田池北端部が最有力候補地となりました。是非、この場所で、コンパクトな施設計画として検討していただければと思います。横芝光町においても色々な状況の変化がございます。大きな部分では、銚子連絡道の延伸が完成するに至って、横芝光町IC周辺の土地の有効利用の検討も始まりつつあります。この場所での今後のあり方について何をすべきかを考えておりますが、まずは、坂田池公園での産直交流施設設置を成功に導いていただき、その成功をもとに横芝光インター周辺での「道の駅構想」につなげていきたいとの認識をいただいた中で、今回の基本計画のご検討をお願いしたいと考えております。議会では、採算に合わない計画を進めていくのかという質問がございました。当然、採算の合わない事業は計画が進んでいても実施いたしません。しかしながら、どのような形であれ、産直交流施設の計画及び設置を成功させたいと思いますので、委員みなさま方の経験、知識をこの検討委員会で発揮していただき、すばらしい検討結果を出していただくようご協力お願い申し上げます。私のあいさつと代えさせていただきます。

4. 委員紹介（自己紹介）

5 議事

（1）委員長及び副委員長選出

仮議長選出「横芝光町産業振興課長」による推薦方法

委員長・副委員長あいさつ

委員長：

「すべてを横芝光町にささげたい」という気持ちで、委員長を務めてまいりますのでみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

副委員長：

まさに今、国から推進されている地方創生の中、横芝光町における産直交流施設の設立が期待させております。先ほど町長のお話の中で、「コンパクトに考えて行こう」というすばらしい提案をいただきました。私も大賛成です。みなさんで大いに議論して、より良い産直交流施設を考えていきたと思いますので、ご協力を申し上げ、私のあいさつといたします。

(2) 経緯説明

横芝光町産業振興課 事務局)

「産直交流施設設置における経緯」説明

(3) 基本計画策定スケジュール・コンセプトの見直し・導入機能の設定・整備対象地の比較検討

(株)オオバ)

資料説明

(4) 意見交換

委員長：

それでは、意見交換を始めます。まず、コンセプトの確認から行います。「水と緑が調和した城下町風の交流空間」ということで、委員みなさまからのご意見をいただきます。よろしくお願いいたします。

委員：

コンセプトとは全く違う意見だが、先ほど、町長が横芝光 I C への設置も考えているとおっしゃいました。2年前、産直交流施設検討委員会での町長の意見では、横芝光 I C 周辺への設置はない方向性で検討していただきたいとのことでした。しかし、先ほどの発言からは、最終的に横芝光 I C 周辺にも設置することを前提に考えているように思われました。

事務局：

横芝光 I C について町長が申し上げたのは、すでに町が取得している三角部分の町有地と町が管理している舗装部分になっている県有地のことです。県有地については、今後、都市建設課で取得の手続きを行うとのことでした。しかし、この用地面積では施設の設置は難しく、町長が申し上げたのは、本線が南側に移動し全線が開通した際に、現在の道路部分も含めて県と相談し進めていければとの考えであります。そうした場合、野呂 P A が 30 km というところに位置しますので、当然のことながら、トイレ施設等は必要で横芝光町 I C 周辺が理想的な場所となります。県と協力しながら、まずは県の方で休憩施設及びトイレ施設等は整備していけるのではないかと、いうところから、町長は横芝光 I C 周辺の活用方法の一案としてお話しさせていただいたところでした。まずは、坂田池北端部に、前回、基本構想時に計画した大掛かりなものではなく、本当にコンパクトな施設を考えております。横芝光町を宣伝していく拠点としての発想から、まずはこの場所に建設していくという方向性のもとで、みなさんに意見をいただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

委員：

結局、その計画に対して色々な意見を出すわけだが、無責任な発言をしてしまってもよろしいのか。

事務局：

横芝光町を町外に発信していく、売り出していく。そういった視点をまず考えていただき、ここにあったらどういったものが必要なのか。例えば、どういったイベントが必要だろうか、こうした方がいいだろうか、そういったものを委員みなさま方にご意見として出していただきたいと考えております。よろしくお願いします。

委員長：

まずは、基本構想に沿って産直交流施設基本計画を考える。その規模につきましては、基本構想時の予算9億ではなく、コンパクトな施設で横芝光町をPRする計画でよろしいか。

委員：

今の意見に関連することだが、やはり、長期ビジョンの中で将来的に横芝光IC周辺に造るということになると、今回の建設計画は、主要地方バイパスがまだ開通していない、集客力も低いということで、そのタイムスパン、時間軸も横に入れて、その中で今回のコンセプトがどういうものになるのかということを考える必要があると思う。その時に横芝光IC周辺の場所にできるのであれば、今回のものは仮設なのか、あるいは10年限定産直交流施設というような、ものすごくアピールが強いコンセプトになるのではないか。そういう将来展望の中で、今ここで何を造るかということのコンセプトが出てくる気がする。その辺りを整理してないと、結局、横芝光IC周辺にも出来るとなると、こちらの規模感とかコンセプトにかなり影響してくるので、その辺はちゃんと整理しておいた方がいいと思う。もう一度、コンセプトを見直し、検討する必要があるのではないかと思います。

事務局：

今回、この坂田池公園周辺、公園内に造った場合のコンセプトとしては、坂田池公園のスポーツ施設を利用する方が年間、約45,000人います。また、この外に毎日グラウンド・ゴルフをされている方やウォーキングをされている方、その外にも観光客等の顧客がおります。そうした中で、やはり坂田池公園の風光明媚というか、初春から春にかけての花である梅から桜、その他にも公園のなかには湿性植物など多種多様なものがあります。そういったものを全部含めた坂田池公園にお客様を迎え入れ、横芝光町をPRしていきたいと考えております。野菜ですとかお米、美味しい食事をしていただく。こうしたことで、町内外からこの坂田池公園に顧客を集め、「横芝光町、ここにあり」と楽しんでいただくような場所を提供し、これに合ったコンセプトを考えていきたいと思っております。

委員長：

コンセプトである城山の里祭り、「水と緑と調和した城下町風」ということで、たとえば今年、梅祭りが最大の集客を迎え、観光協会も当協会でも保有している88本の梅を宣伝しました。多くのお客さまを迎えましたが、梅林、坂田城跡及び坂田池公園を利用した中のコンセプトの提案がされていると思います。

委員：

坂田池公園のことでお聞きしてもよろしいですか。現在、子どもたちが利用できる運動広場があって、私たちも利用した時に、この場所に飲食ができるところが欲しいと思っておりました。ただ、スポーツ施設を利用した土、日のスポーツ競技会が多く、観光事業も土、日です。安全性と便利性を考えた場合、それが少し気になっております。中学校も隣接していますので子供たちの安全も守らなければなりませんし、何と言っても、車でいらっしゃる方の駐車場の確保をどう考えているのか。現状では駐車場スペースが少ないと思われまます。現在、横芝中学校内でソフトテニスや野球ができる施設が整っており、大会が開催されていますけれども、駐車場スペースが少なく、近隣のコンビニの駐車場を利用している車両も見受けられています。それが現実問題なので、実際、産直交流施設を造るとなった場合に駐車場の確保をどう考えていらっしゃるかお聞きしてもよろしいでしょうか。

事務局：

駐車場が不足しているのは事実であると思います。その中で、駐車場を増設する対策として周辺の農地を利用しなければならないと思われまますが、農業振興地域でありますので、農地を駐車場等に転用することは簡単ではありません。どのように交通計画を立てていくのか。この課題は、今後の委員会で検討していきますのでよろしくお願い致します。

委員長：

今の議題は、基本コンセプトについて提案を受けております。コンセプト以外のご意見も出ていますが、コンセプトについていかがでしょうか。

アドバイザー：

今、委員長からあった整備コンセプトの上にある基本構想策定時の整備指針というのがあって、基本構想策定には私も携わらせていただきました。この整備指針も色々と意見を交換しながら作成した思いがあります。パブリックコメントも実施して、前回の基本構想を策定されていると思いますが、今回、これのコンセプトの見直しについては相当な調査による作成だとは思われまますが、もしよろしければ、その見直しのきっかけとなった理由や、せっかく基本構想で定めたコンセプトを活かさなかった理由などをお聞きしたい。

事務局：

基本構想時のコンセプトである「この横芝光町の活性化と持続的な発展に向けた町の今昔、そして未来を支えるふれあい、情報発信拠点の創造」は、横芝光町全体を見据えた言葉であります。しかしながら、この坂田池公園の北端部に関するコンセプトとしては、コンパクトな施設に推進するうえでもっと絞り込んだコンセプトの方が的確なのではないのかと考えまます。お客さまに説明するにもその方が良いのではないかとということで、計画地域に絞り込んだコンセプトに変更したいと考えております。

アドバイザー：

せっかく定めたコンセプトを変えるのであれば、その経緯も説明された方がいいという気がしましたので、質問させていただきました。

委員：

今日参加させていただきましたが、最初に坂田池北端部に造ることが前提で、先ほど町長が言っていた、「今すぐには無理だが将来的に横芝光 I C 周辺にも造る」といった計画があるのか。坂田池周辺に公園と城跡とのテーマで造ることはとても素敵なことだと思います。坂田池周辺に建設した後に、もう一度、将来的には横芝光インター周辺に建設するのかわ確認したい。坂田池公園周辺に産直交流施設計画を進めるが、横芝光 I C 周辺計画については未定ということですのでよろしいですね。また、坂田池周辺に造ったとして、毎日利用する方はどのような人を想定しているのか教えていただきたい。

事務局：

先ほども申し上げたとおり、町長がお話したのは、本線が南側に移動し全線が開通した際に、現在の道路部分も含めて県と相談し進めていければとの考えであります。そうした場合、野呂 P A が 3 0 km というところに位置しますので、当然のことながら、トイレ施設等は必要で横芝光町 I C 周辺が理想的な場所となります。県と協力しながら、まず県の方で休憩施設及びトイレ施設等は整備していけるのではないかとこのところから、町長は横芝光 I C 周辺の活用方法の一案としてお話しさせていただいたところです。実際、本線がいつ開通するかは全く不透明で、10年後に開通するのかわどうかわ分からない状況でございます。ご理解をいただければと思います。また、ビジネスの基本は小さく始める。最初から10億、9億かけて始めるものではなく、最初は小さく始めるのが理想及び基本ではないかと考えております。そして、毎日利用する方の想定ですが、確かにこの2km周辺ですとデータにもありますように人口としては確かに少ないです。しかしながら、この田舎社会でございますので、これからの超高齢化社会に向かいどれだけの人が車を運転するかという条件はありますが、5km圏内の集客人口を考えております。

委員長：

平成27年10月に産直交流施設の基本構想が策定され、坂田池北端部が第1案として決定されました。この基本構想を受けて今回の基本計画の策定をしております。このことを共通理解として認識していただき、質問をお願いできればと思います。

委員：

余談な質問ですが、国道から坂田池を通る県道は、何時頃開通するのですか。分かる範囲で教えていただきたい。

代理：

今のご質問の中で横芝下総線バイパス、これにつきましては、国道から大総新道まで約1.1kmでございます。その中で、現在400m、国道から本町地区までが完成しております。あと残りの700mの中には、まだ用地買収できてない箇所がございます。先日、町としても管轄である山武土木事務所に開通までの今後の予定を相談させていただきました。なるべく早急にこのバイパスを完成させる方向で町も県にお話しさせていただいております。はっきりとした完成時期は申し上げられませんが、ご理解いただければと思います。

委員長：

今、コンセプトについての意見をいただいておりますが、様々な意見が出てきてお

りますので、次は2番目の導入機能を確認したいと思います。コンテナのイメージ写真がある資料をもとに委員みなさんの提案、または意見をいただければと思います。

委員：

コンセプトに「城下町風」という言葉があるが、施設を建てる場合、そのイメージを形にするという手法があると思いますが、要するに、城下町というと私たちの頭に浮かぶのはどこかのお城の城下町ですね。坂田城跡から出てきた言葉だと思われるが、現場に行ってもとてもそういう風には感じられません。何かの形で城下町風に見せるようにするのだと思いますが。でも訪れた人に、「あれ、城下町どこにあるの」と言われそうに思っています。いかがでしょうか。

コンサル会社 オオバ：

コンテナで施設を造った場合でも外装加工は可能ですので、「城下町風」で進むのであれば、それなりの屋根やノボリを設える必要があるのではないかと思います。あとは、建物と通路との距離感も考えながら配置計画及び土地計画を考えていかなければなりません。今日の議論の中で、「いやいや全然違うよ」というのであれば、別の方向で考えなければいけないので、「あれもあるしこれもあるよ」ではなく、どういう方向に進めれば一番いいのかということを考えていただいき、それに合った施設を創り出せたらと思います。

事務局：

付け加えますと、例えば、現在、近くにあるラーメン屋さんですとかお蕎麦屋さんをひとつに括り、あのエリアで城下町風みたいな、そういったイメージで計画したらどうでしょうかという案でございます。

委員長：

私は、関東の道の駅で訪れた場所はすべて内容を書き留めていますが、例えば、長野県方面の施設は非常に城下町風にしているところが多いです。しかし、建物を見て城下町風だなとは思いますが、やはり、内容は中身であり販売品です。芝山町の風和里は、緑が非常に目立ちます。そうした中で、「建物は何でもいいから中身がみたい」というような気持ちにさせないと集客は難しいと思います。ですから、コンテナとか価格の安いもので設定したのではないかと思います。いかがでしょうか。

コンサル会社 オオバ：

将来、次の場所を想定される方向性もあるとなると、やはり、建物にお金をかけても建物自体は1円も売り上げをあげてくれることはないので、できるだけコストを安く下げた中で造っていくというのが理想だと考えます。あと、コンテナの場合、一番建築でメリットがあるのは、設置してみても場所に不都合が生じた場合、インフラ整備はやり直すにしても、建物の移動や向きを変えることができるので、他の建築物よりも柔軟性があることから取入れを考えております。

委員：

今までの話を聞いていると坂田池北端部計画が、「とりあえず」のように聞こえてしまう。この中で私が一番坂田池の近くに住んでいると思いますが、すごく寂しく感じられます。先ほどの町長のお話の中で、「とりあえず」のように受け取れてしまった。けれども、とりあえずはとりあえずとして、これに集中して議論をしたいと思

います。横芝光 I C が出てくるたびに私たちは、松尾横芝 I C と横芝光 I C に挟まれた「とりあえずの土地」に住んでいるのだけれども、地域住民としては風土も理解しているし、このような施設を造っていただきたいという気持ちはずっと持っていました。もし計画するのであれば、「とりあえず」ではなくてしっかりとしたものを作っていただきたいと思います。

委員長：

確かに、「とりあえず」という言葉が先行してしまうことは困りますね。

委員：

先ほどからお話を伺っておりますが、事務局にお願いしたいことがあります。今日の委員会での提案事項は 3 案ありますが、それぞれ、実際にどの案が良いのかを委員みなさんに選んでいただき、計画を立てていきたいのだと思われませんが、「これで実行したい」というメッセージがちょっと弱いような気がします。そして、もうひとつ、先ほど、町長からお話があった横芝光 I C 周辺計画については、「構想でも何でもない」とはっきりさせた方が良くと思います。そういうものを取り上げるのではなく、今、基本計画策定に向け委員みなさんの英知を絞り、「意見を出し合っていきましょう」というメッセージが弱いような感じがします。現在、提案している事項から検討していただくように推進した方がよろしいかと考えます。

委員長：

先ほど、町長は自分の前向きな発言の中で、「何十年先にはやれるだろう」という気持ちはあるのではないかと。それが「とりあえず」という言葉に置き換えられたのだと思います。

委員：

やはり、町長の言葉は重く受け止められなければいけないと思う。これは町のトップの考えなので。とにかく、私はお金をかけないでコンパクトにというのは大賛成。例えば、野菜の直売所である光直売所があるが、結構お客が来ている。そういうところを踏まえて、お金をかけなくてやってみるのも一つの手じゃないかと思う。結局は町長が言ったように、横芝光 I C も全線開通するまでここがそのままかという限りではないと思う。おそらく、この横芝光 I C については、本線の工事がいつ始まるか分からないけれども、銚子方面まで道路が繋がらないと現在のインターを直さないよというのではないと思う。やはり、県に働きかけ、この県有地については早く結論を出していただき、町長が言った方向性についての意見も検討する必要があるのではないかと私は思っている。

委員：

最高のものを創りたいと思っているので、横芝光 I C 周辺に計画することは絶対必要だと思います。しかし、あと 20 年、30 年先の子供たちの負担にならないようにする必要があります。長期ビジョンの中で一番にやりたかったものが、今回、場当たりのになるのではなくて、将来的な展望を持ち、不確定要素もあるので、しっかりと踏まえた上で今どういうものを造る必要があるのかを考え、逆算していくとコンセプトも変わってくるだろうし、施設のグレードも変わってくると思います。本当はある程度のシミュレーションをして、10 年先を見据えた中でしっかりと計画し、そこで最大の効果を生み出せるようなものを創るというような発想でなければならないのか

なと思います。

委員長：

色々な意見が出ていますが、導入機能や整備候補地の位置ですとかまとめて意見を出していただいて結構です。よろしくお願いします。

委員：

すみません。資料に分からないところがありました。20ページのA案ですが、用地費・補償費の欄に用地内に設置するため用地取得が不要となっています。この地図と、別紙2のふれあい坂田池公園の赤枠に若干の差異があるのではないかと思います。地図を見ると用地を買い取ったように見えますが、私有地ですよ。初めて見た方は、用地買収が済んでいて、すでに町有地であるとの誤解をさせるのではないかと思います。これはきちんとしていただきたいと思います。

委員長：

委員が言うように私有地ですね。訂正をお願いします。

委員：

導入機能に関してよろしいですか。せっかく色々な資源があるところに計画していますが、これを最大限に活かせるような導入機能にするための欠点が1つあります。コンセプトの中に「城下町風」と記載してあるが、普通の人々が来た時にイメージしにくいと思う。町には坂田城の感動する模型があるので、ちゃんと展示されている坂田城の城下町のイメージが喚起できるような展示施設があってもいいかなと思います。

委員長：

とても良い意見だと思います。他にありませんか。基本構想をもとに基本計画を策定いたしますので、先ほどの町長のお話は一度置いときまして意見を交換していきたいと思います。

委員：

意見を聞いていきますと、私も含めまして、みなさん、道の駅の建設を想像しておりますよね。この資料を見ると道の駅じゃないですよ。結論的に道の駅という概念は捨てて、コンパクトな産直交流施設を考えるべきではないですか。すべての町民が坂田池周辺に道の駅を計画することに対し賛成はしないと思います。反対の方もいると思われるので、要するに、コンパクトな産直交流施設による農産物の販売などを考慮したコンセプトを考えるべきだと思います。

コンサル会社 オオバ：

道の駅の必須条件としては、24時間利用可能なトイレと休憩所の設置が義務付けられています。トイレ及び休憩所はしっかりしたものを造りたいと考えています。トイレはとにかく綺麗なものを、利用者が本当に利用したくなるようなところを目指しています。当然、休憩室も先ほど展示室の話がありましたけども、横芝光町の情報を発信できるような展示室を含めた休憩室を造りたいと思っています。しかしながら、産直施設や物品販売については、コンパクトなものから始めながら徐々に付け加えていきたいという考えのもと、今日の資料を提示させていただいております。ご理解いただきたいと思います。

委員長：

道の駅の登録については、必須条件を整備することによりいつでも申請ができます。最初は産直交流施設から考えているということでもよろしいですね。ここで、施設に関し経験豊富な千葉県物産協会の委員が出席されていますので、ご意見をいただきたいと思います。

委員：

委員みなさんの意見はそれぞれ納得できます。以前も私は申し上げたのですが、町の方々が「これをやろう」という気持ちが一本にまとまらないとこういうものはなかなか上手くいかないものです。設置しても運営が上手くいかない場合や、「俺は知らない」とか、販売品が足りなくなっても誰も補充してくれないことが多いので、ここでの委員会を通して、みなさんの気持ちをひとつにしていくことが必要だし、お金もかかることなので、どのようなコンセプトで進めていくのかが一番大事なことだと考えます。最初の基本構想で進めていったらいくらお金があっても足りないと思います。先ほどの委員みなさんの意見や町長のお話にもありましたけども、コンパクトな産直交流施設を考えていくのであれば、それを基本コンセプトにして、例えば、「日本で一番小さい産直交流施設」で計画してみても面白いと思います。その代わり、施設機能はみなさん方に積極的に協力をしていただき、イベントとしてヨガ教室を開催するとか、それぞれの販売品についても、この近隣では売っていないような素晴らしい野菜や梅を使った何かの特産品、これらを東京のデパートへ出しても全然おかしくない、東京の人たちがそれを求めてここに買いに来るような製品開発も必要なのではないかと考えます。また、この町の文化において、鬼来迎や沢山の神楽があるので、それをどうやってお客さんに見せられるように考えていくかということも必要だと思います。例えば、以前、TBSが鬼来迎の取材に来たりして、結構メディア関係の人たちは関心を持っておられますので、産直交流施設で鬼来迎のダイジェスト版みたいなものを定期的にお客さんが見られるようにしたら面白いのではないかと思います。地域に経済行為が発生するような形を作り上げていくことがこの委員会の目的であり、多くの発想を出し合いながら、町全体でお客さまを迎える産直交流施設と捉え、坂田池北端部を中核として「何ができる」のかを考えるのもひとつの方法だと思います。

委員長：

「心をひとつに」という気持ちでお客さまをおもてなしする施設を考えるべきであるということですね。ありがとうございます。

アドバイザー：

今の委員の意見に類似していますが、私が基本構想策定時の検討委員会でお話ししたのは、統一感を持った方向性が必要であるということです。本日の町長のお話は聞いてはいないのですが、この坂田池北端部を暫定場所としてではなく、この場所に町の産直交流施設を造り上げることに専念した方がぶれなくていいのかなと思います。それから、基本構想時のコンセプトの中にあつた横芝光町の「すごくいいな」と思っているものが食肉センターのモツで、ここを訪れた時に食べるのがとても楽しみで、すごく気に入っております。例えば、「発酵の里こうぎき」は、あのキーワードが非常にうまく当たって、実際、ほとんどの発酵食品は全国から集められたものですが、それが受けて来客数が増えています。これからの時代、道の駅なのか産直施設なのかは別として、強いコンセプト、キーワードを掲げていかないと埋没してしまうと思われるし、いわゆる野菜の直売所というレベルであれば計画する必要がないのでは

ないかと思えます。強いコンセプトを出すという意味では、私は食文化だと思えますし、この資料にはあまり食文化的なものが無かったので、そのような単語も入れていただけると実際の基本計画策定にプラスになるのではないかと考えます。もし、検討の余地があれば入れていただければと思います。前回の基本構想時に作成した「町の今昔、そして未来を伝える」という中で食文化を伝えていくのもコンセプトの1つとなっていたと思うので、検討していただければ幸いです。

委員長：

非常に良い意見をありがとうございます。まだ、発言のない委員に意見を求めます。委員いかがでしょうか。

委員：

私も道の駅が好きで、城跡瓦の道の駅はビジュアル的にもいいなと思えます。坂田池北端部についても基本的に良い場所だと思いますし、予算をかけないでコンテナハウスで計画しているところもとても良いことだと思います。私が思うのは、最初から10ではなく、現在、国道沿いにある産直施設みたいなもの大きさでいいから、3ないし4から始めて、また、その中から「こういうものがあつたらいいよね」という話が出てくるはずなので、スクラップアンドビルドではないですけど、コンパクトな分だけ必要な条件を入れ替えることができるのでとても良いことだと思います。資金はみなさんの税金ですので、僅かな資金でこれだけの施設ができたとなれば、人も呼べるし、いい前例として広がっていくのではないかと思います。

委員長：

非常に良い意見をありがとうございます。

委員：

産直交流施設の規模とそれに対する直売所や食堂を設置するための予算がどのくらいかかるのかが今後の問題になってくるし、施設規模や内容による予算額が見えてこないから思うように話が前に進まないのだと思います。今日は、初回の委員会ですから、そういうわけにはいかないと考えておりますが、次回までにレイアウトのようなもの、例示的なものを提示していただければ、もう少し詰めた話ができるのかなと思います。

委員長：

次回の会議では、ある程度の施設規模や内容を示していただきたいとのことです。

委員：

私は、観光の仕事に携わっています。以前、自分の町の観光満足度の意識調査がありましたが、横芝光町は県内で最下位でした。産直交流施設の建設により町民が少しでも町観光に意識を持っていただいたら観光関係者も意識が変わってくるのではないかと考えています。宿泊組合は、「町民の方々が町観光に対する意識が薄い」と半ばあきらめています。ですから、産直交流施設の立ち上げが町観光全体の潤うひとつのきっかけとなればうれしく思います。

委員：

私は、基本構想時の内容はよく分かりませんが、今日の意見内容を聞き、私も建物にいくらお金をかけても目玉商品がなければ無駄な施設になってしまうと思います。私は農業振興会の会長で農家の代表で来ているような感じがします。旧光町側には1年を通じネギがありますが、旧横芝町側はトウモロコシのような時期的なものしかない。その時期だけ来てくださいというわけにもいかないし、1年間ずっとコンスタントに販売できるようにするにはどうしたらいいのかだけを考えていました。まだ基本計画策定の段階ですので、今後の検討委員会でみなさんと一緒に考えていければと思います。まずはコンテナハウスで、お金をかけずにコンパクトな感じで賛成です。

委員長：

私の経験から言うと、産直施設に必要なものは予冷库とあと仕入れ商品です。これは絶対不可欠なものです。直売所で売れる手引きにも予冷库と仕入れ商品とあります。また、すべてを町内限定のものにすることは絶対に不可能です。例えば「匝りの里」としましたが、匝瑳市以外に横芝光町の商品も仕入れています。町内の野菜すべてを賄えることはできません。今の時期は一番野菜がありませんので、どうしても仕入れに頼らざるを得ない部分があります。当然、果物だとか他の商品についてもそうですが、営利を目的として運営した場合、仕入れ商品は絶対に必要となります。これは私の経験上の話です。先ほど、間違いの訂正をされただけですので、ここで、委員のご意見をお聞かせください。

委員：

反対ありきでこの場にいるわけではないが、先ほどから皆さんの意見を聞かせていただきましたが、コンパクトでも中途半端なコンパクト計画には反対です。「よくぞ、こんなにコンパクトでも素晴らしいものを造ってくれた」と、町民のみなさんに納得していただける施設をみんなで英知を振り絞って考えていけたらなと思っています。委員長さんが検討委員会の委員としていることもすごく心強く思っております。どこの市町村よりも「何でこんないいものを創れたの」と僻まれるような、そういう施設を地元で計画し造っていきたいと思っています。

委員長：

委員は、全国ネットワークをお持ちですから、モデル的な産直交流施設を提案していただけると有難いと思います。他にご意見のある方はいますか。

委員：

坂田城跡と坂田池を結ぶ施設事業となるでしょうから、梅祭りの梅林会場に行く山道への案内看板を設置していただきたい。民家の間の細い道を抜けて行く状況ですので、観光客から「どこから上っていけば良いのか」とよく聞かれます。案内看板は出せるとは思いますからお願いしたい。地元の人も案内しやすいようにしていただけると助かります。

委員長：

観光協会代表の委員がおりますので、よろしく申し上げます。他にございますか。財政課長にご意見を伺います。

委員：

本日検討委員会に参加させていただきましてが、企画財政課として町の将来構想、もうひとつは町の予算的なものを統括しております。先ほどのお話の中で2箇所産直交流施設が必要なのかという極論的なご意見が出たと思います。やはり財政的には、本来、2町が合併して、合併後10年以内にそれぞれ必要なインフラ等の整備を終了しなければならなかったところです。また、東日本大震災の影響により合併特例債等が10年延期されましたが、まだまだ合併の積み残し事業がある中で、将来の財政負担が正直、厳しい状況でございます。ただし、先ほど話があったように町民のみなさんが産直交流施設の設立を望んだ一本化の意見があるというのであれば、それについては町の施政の中で、なんとか捻出をしていかなければならないと思っております。そして、産直交流施設が2箇所必要かどうかという議論の中で事務局が説明しましたが、運営形態についてもしっかりといただく必要があるのではないかと思います。また、この先どのように横芝光町IC周辺を開発していくべきかについても、当然、地方創生において町の将来構想の中に組み込まれておりますし、やはり、横芝光IC周辺に造りたいという思いがあれば、まずは坂田池北端部にしっかりとした経営母体の施設を立ち上げ運営していただきたいと考えます。財政サイドの話をしてますとなかなか2施設は厳しいところではございますが、いずれにしても、この委員会の中でしっかり議論していただければと思っております。

委員長：

時間となりました。先ほど申し上げたように、「心をひとつ」に委員みなさんで知恵とアイデアを出し合って坂田池北端部にコンパクトな施設を計画するため、次回の検討委員会もよろしくお願いいたします。

事務局：

すみません、1点よろしいでしょうか。コンセプトの中で「城山の里祭り」という大きなタイトルがあるわけですが、これについて、もし違和感があるとか例えば、先ほどアドバイザーさんがお話ししてくれましたけれども、食文化であったり、食だと他のところとなかなか差別化がしにくいというところもあります。もう少しコンセプトや特にタイトルについて「練り直したほうがいいな」という委員さんのお考えがあれば挙手でも結構です、この辺を変えたほうが良いのではという意見があればお願いいたします。

委員：

いただいた資料をよく読み直してみます。ここで決めなくても時間をいただいて宿題にしたらどうでしょうか。

事務局：

では、委員のみなさま方から「もう少しこうしたタイトルにした方がいいのでは」、「このコンセプトにこれを加えた方がいいのでは」というご意見があるようでしたら、電話でもファックスでも結構ですので、産業振興課まで申し出いただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員：

先ほど委員からありましたけど、地方創生に絡む事業なのかどうか、また、予算を含めてどのような国の補助金、交付金などが利用できるのかをみなさんに次回、ご提

示というか教えていただければと思います。

委員長：

よろしいでしょうか。それでは、第1回横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

閉会 午後3時45分

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 第1回横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会座席表
- ・ 産直交流施設設置における経緯について
- ・ 第1回横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会名簿
- ・ 横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会設置要綱
- ・ 横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会スケジュール（資料-1）
- ・ コンセプトの見直し・導入機能の設定・整備対象地の比較検討（資料-2、資料-3）
- ・ 第1回横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会に関する資料構成のご説明（別紙-1）
- ・ -参考- セイムスケールマップ（1/1万）による規模比較（別紙-2）
- ・ コンテナを活用した店舗の事例（別紙-3）